

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 1

主要事業名	オリンピック教育の推進	担当	部名	教育委員会
			課名	教育指導課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ	
基本方針	1 学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(2) 豊かな心の育成
個別施策	① 様々な体験活動を活かした学びの充実

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピックムーブメントの促進。 ・鹿嶋市の未来を担う子どもたちが、オリンピックに直接触れることにより、開催都市のレガシーを子どもたちの心に残していく。
---------------	---

3 実績

実績	<p>公益財団法人日本サッカー協会と協定を締結し、2カ年計画でオリンピック・パラリンピック競技のトップアスリートを市内公立小中学校全校に派遣する事業を実施。北京オリンピック男子メドレーリレー銅メダリストの宮下純一氏や、バレーボール男子元全日本代表の山本隆弘氏ら、著名なメダリスト・オリンピックが夢先生を務め、「夢の教室」や「特別講演会」を実施するなど、オリンピックムーブメント促進に寄与した。</p>
----	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>オリンピック・パラリンピック競技トップアスリートを学校に派遣するJFAこころのプロジェクト「夢の教室」及び「特別講演会」は、オリンピック特別予算に計上しているため、原則としてオリンピック開催年までの事業実施となる。一過性の事業ではなく、オリンピック終了後も継続事業とする場合、財源をどうするか検討していかなければならない。</p>
改善策	<p>本市のオリンピック競技開催及び開催都市のレガシーとして、2020年度より小学校5年生対象の「夢の教室」にフォーカスし、事業化を図る。</p>

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 2

主要事業名	安心安全な給食の提供・食育活動の実践	担当	部名	教育委員会
			課名	学校給食センター

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ	
基本方針	1 学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(3) 健やかな体の育成
個別施策	① 食育の実施と学校給食における地産地消の更なる取り組み

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や関係機関、委託業者等と連携し、安全でおいしい給食の提供を行う。 ・地元の食材を使った献立や郷土食等の提供を行う。 ・学校教諭（栄養教諭・給食主任等）と連携し、学校給食における衛生管理や食育の推進を図る。
---------------	---

3 実績

実績	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭による各学校への訪問指導（食育授業）を実施し、給食の時間を使って各担任の先生や給食主任の先生により食育の推進を図った。 ・鹿嶋産しらすを使った給食を年3回実施し、マスコミを通じて地元食材による給食の提供と保護者や市民に地産地消のPRを図った。 ・学校給食主任や学校給食配膳員等との会議研修、センター職員による学校訪問等を実施し、学校における衛生管理の徹底を図った。 ・食器を計画的に更新することができた。また、緊急的に給食備品（食缶）を更新する等、安全性の向上を図った。
----	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の推進は、給食数（約5,800食）に必要な多量の食材を使用するため、安定的に確保（生産）できる米以外の地元食材（取扱品目）が少ない。 ・給食センターは平成19年度に整備してから約11年が経過し、施設や調理器具等の経年劣化による故障が増加している。また、昭和63年度に整備された大野中学校（調理場）は30年以上が経過し、部分補修等を行って実施しているが、大規模な見直しが必要な時期を迎えている。給食調理・提供を中断することなく円滑に運営するためには計画的な改修等が必要である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産物の提供による児童生徒の地元理解を深めるために、農林水産課と連携し地産地消を更に推進する。 ・施設の現状と調理器具等の耐用年数を調査し、計画的な改修を進める。※修繕・改修工事等は、学校長期休み（夏休み等）中に行う。 ・鹿嶋市における学校給食の体制現状（給食センター、大野中単独調理場）や今後の生徒数の推移等を調査し、統合又は大規模改修を令和3年度までに検討していく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 3

主要事業名	学校給食費管理システムの運用と滞納対策	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
基本方針	1	学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(3)	健やかな体の育成
個別施策	①	食育の実施と学校給食における地産地消の更なる取り組み

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	受益者負担による公平な学校給食の提供を実現するため、滞納整理及び滞納発生の抑制に努める。
---------------	--

3 実績

<p>毎年度ごとに学校給食費の累積滞納額が増加する中、効果的な滞納整理により累積滞納額を減少させることができた。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	現年度の滞納者を抑制し、滞納整理業務を効率的、集中的に行えるようにする必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・現年度の滞納者発生を抑制する新たな取り組みの検討。 ・市収納関係課との連携による、効果的な滞納整理方法の検討。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 4

主要事業名	生きる力の育成を通じた学力向上のための授業改善	担当	部名	教育委員会
			課名	教育指導課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
基本方針	1	学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(4)	確かな学力の保証
個別施策	①	鹿嶋市授業改善プロジェクトによる授業の推進

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の発見及び解決に向けた、主体的・対話的で深い学びの充実を図る。 ・主体的・対話的で深い学びを充実するためのカリキュラム・マネジメントを、各校の実態及び特色に応じて作成し、校内の共通理解を図る。
---------------	--

3 実績

<p>授業改善プロジェクトを中核とした研修の推進を通して、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの充実が見られる。特に中学校数学科では、全学年が県平均を上回ることができた。このことから教員一人ひとりの資質の向上にもつながっていると考える。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	児童生徒の学力は、着実に向上しつつある。次年度は、県学力診断テストの結果の結果より、小学校国語科において、「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」の一層の指導の充実が求められる。
改善策	授業改善プロジェクトを基盤として、学校訪問及び研修支援などを通して、市内各校が自校化できるようにしていく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 5

主要事業名	新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	教育指導課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ	
基本方針	1 学び高め合い、生きる力を育む学校教育の推進
体系項目	(4) 確かな学力の保証
個別施策	⑤ 小中学校での英語教育の充実

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から英語に慣れ親しむことにより、言語や文化に対する興味・関心を高め、国際理解の基礎を培う。またコミュニケーション能力を育成し、将来を見据え国際社会に対応できる人材育成を目指す。 ・中3における英検3級程度の英語力を有する生徒の割合50%以上を保つ。
---------------	---

3 実績

	<p>R2から次期学習指導要領が全面実施となる。本市では国と県(H31～)に先駆け、今年度から小5・6において教科としての時間と内容を先行実施した。本市児童の実態に合ったものにするため、国からの指導内容に加え、これまでの学びを生かしたプラスαの指導内容やオリンピック関連の内容、市紹介等も加えた。英語教育におけるICT活用を進めるため、つくば市立みどりの義務教育学校を視察した。</p>
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>英語力や指導に不安を抱いている小学校学級担任が多いため、英語力・指導力の向上に向けた研修の充実及び人材の育成・確保が課題となる。</p> <p>大学入試制度・全国学力・学習状況調査においても、今後は4技能の英語力をみるテストとなる。4技能をそれぞれ測定することができる外部試験を実施していないため、客観的な力を捉えることができていない。</p>
改善策	<p>推進校による授業公開、研修会、英語力向上スーパーバイザーと指導主事による随時の授業参観での指導・助言により、教員の英語力・指導力向上を図っていく。</p> <p>中学校においては、4技能を測定できる外部試験を実施する。</p>

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 6

主要事業名	教育環境の整備	担 当	部 名	教育委員会
			課 名	教育総務課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ	
基本方針	2 豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(1) 安心・安全・快適に学べる教育環境の整備
個別施策	② ⑤ 小中学校大規模改修の計画的な実施 学校体育で利用可能な温水プールの新設

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーな校舎の改修により長寿命化と教育環境の充実を目指す。 ・普通教室のエアコン整備や学校プールとしての機能を備えた屋内温水プールの整備等により、児童生徒が安心・快適に学べる環境を整える。
---------------	--

3 実績

	<ul style="list-style-type: none"> ・どの施設も建設から30年から40年が経過しているため、大規模改修工事（老朽箇所の船体的な改修）の計画的な実施が必要。令和2年度には鹿島中学校の大規模改修工事を予定している。 ・小学校全校の普通教室にはエアコン設置が完了した。中学校についても令和元年度で完了予定である。 ・大野区域屋内温水プールは平成31年3月に完成した。
--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>・大規模改修事業を計画的に進めていくには、市財政の負担を軽減するためにも国庫補助金の確保が重要となるが、採択については不確定である。</p>
改善策	<p>・小・中学校施設の長寿命化を図っていくためには、残り14校の大規模改修事業について、国庫補助金が採択されない場合でも毎年計画的に実施していくべきである。</p>

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 7

主要事業名	教育・保育施設再編成計画案の作成・実施	担 部 名	教育委員会
		課 名	鹿嶋っ子育て課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり	
体系項目	(1)	安心・安全・快適に学べる教育環境の整備	
個別施策	④	鹿嶋市教育・保育施設整備方針に基づく幼児教育施設の整備	

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	上述したような社会的な背景などを踏まえ、中長期的な教育・保育の需要と民間事業者による供給のバランスを見込み、適正かつ効率的な施設の配置を目的とした方針を策定する。
---------------	---

3 実績

公立幼稚園・保育施設再編方針を策定した。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	今後、市民説明会など対外的な周知作業、方針の実施に段階が進む。特に影響の大きい地区には丁寧な説明が必要である。
改善策	方針として、想定が足りない部分もあるため、上半期、下半期で状況を見極め、都度計画を見直す必要がある。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 8

主要事業名	就学相談の充実・特別支援教育の推進	担 部 名	教育委員会
		課 名	教育指導課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり	
体系項目	(2)	一人ひとりの特性に目をむけた特別支援教育の充実	
個別施策	①	特別支援教育の推進のための指導・支援体制の充実	

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	未就学児や小中学生の就学や支援体制について、就学相談員が本人・保護者・教員のさまざまな相談に応じ、外部機関と共に良い就学と支援体制が整備ができるよう支援を行う。
---------------	--

3 実績

文部科学省において教育支援計画を作成するように示されている中、本市は支援学級在籍・通級指導教室入級の児童生徒の作成率は100%を達成している。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	特別支援教育コーディネーターの定年や異動に伴い、次世代の特別支援教育コーディネーターへの知識・経験の伝達が喫緊の課題である。 通常学級に在籍する配慮を要する児童生徒の個別的教育支援計画と個別の指導計画の作成率が低い。
改善策	新任特別支援教育コーディネーターの育成のため、特別支援教育コーディネーター研修会で学識経験者を講師として招き、研修する場を設ける。また、就学相談員を増員し、相談体制の充実を図り、特別支援教育コーディネーターの相談に応じることができるようにする。 通常学級に在籍する教育支援計画作成率を市として40%に設定し、計画訪問や特別支援教育研究部会、教頭会において趣旨説明を行い理解促進に努める。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 9

主要事業名	小中一貫教育の検証と推進	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり		
体系項目	(3)	地域の実情に配慮した特色ある学校づくりの推進		
個別施策	②	小中一貫教育の推進		

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	小学校と中学校の9年間連続した学びの中で「確かな学力」と「豊かな人間性」の育みが期待できる小中一貫教育の全市的な推進を図る。進めるにあたっては、地域の実情にあった小中一貫教育の導入を図る。
---------------	--

3 実績

	学校と事務局が連携を図り、高松小中一貫校を順調にスタートすることができた。学校においては、英語教育や交流事業での児童生徒の学力や心の育成に成果が上がった。また、推進委員会において、1年間の実践における課題を学校と教育委員会において共有を図ることができた。
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	1年間の実践を通して得られた成果をさらに伸ばしていくために課題の解消を図っていく。特に市全体への小中一貫教育の認知度が低いため、情報発信を強化する必要がある。さらに、次のステップとして、小中一貫教育の学校の選定等も高松小中一貫教育の状況を見ながら必要となる。
改善策	上記の課題解決のため、学校と教育委員会が連携し、高松小中一貫教育の検証を継続的に行いながら、市内他校への拡充について、地域（中学校区）にあった小中一貫教育の手法を検討していく。また、市全域において、小中一貫教育の認知度を高めるための情報発信を積極的に行っていく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 10

主要事業名	通学区の見直し	担当	部名	教育委員会
			課名	鹿嶋っ子育成課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ				
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり		
体系項目	(3)	地域の実情に配慮した特色ある学校づくりの推進		
個別施策	③	通学区検討委員会による通学区の見直し		

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	上記の課題等の解決のため「鹿嶋市小中学校通学区再編成検討委員会」において、学校の規模及び配置の適正化並びに通学区の見直しを検討した再編成（案）を、平成30年度に市民へ公表し、寄せられた意見等をまとめ、令和2年度には、現状に合った新たな通学区に変更する。
---------------	--

3 実績

	検討委員会の方向性に基づきつつ、保護者や地域の意見を考慮した新通学区を策定し、市民に公表することができた。
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区が変更になることで、不都合が生じる世帯もある。 ・今後は決められた期間内で、通学区見直し（案）に基づいた規則の改正、住民基本台帳システムの小中学校区変更、新たな通学区での在学学生、新入生の案内、就学通知発送など遅滞なく行う。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・不都合が生じる世帯の方へは、通学区再編制に基づく新たな学区について、丁寧に説明していく。 ・令和2年度の入学時には、新たな通学区でスタートするために、スケジュール管理を行い、迅速に事務執行を行う。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 11

主要事業名	教育に関する積極的な情報発信	担 部 名	教育委員会
		課 名	教育総務課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり	
体系項目	(3)	地域の実情に配慮した特色ある学校づくりの推進	
個別施策	④	情報の提供や広報活動・ホームページの充実	

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	本市の教育行政や地域の特色のある教育活動を積極的に紹介しさまざまな媒体を通じてタイムリーに発信していくことにより、市民の本市教育行政への理解・関心を深める。
---------------	--

3 実績

「教育かしま」ではインタビューや写真撮影を積極的に行うことにより、教育委員会や学校等が取り組んでいることや鹿嶋っ子の頑張りを紹介することができた。また、HPをとおして教育委員会会議の議事録を公開することにより、会議の透明性を高めることにつながった。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会では幅広い事業が行われており、様々な手法を用いて多様な情報発信を行い、市民の方に「知っていただく」必要がある。そのためにはタイムリーな話題や鹿嶋っ子の頑張りの身近なトピックスを紹介し、その先の情報への足掛かりとなるよう、積極的に情報発信していく必要がある。 市の広報担当課である広報推進課が発行している「広報かしま」との連携を推進していく。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「教育かしま」は、内容もさることながら、読者の方の目を引き、読みやすいレイアウトを実践していく。 HPを訪問した方が知りたい情報にたどり着け、また知りたい情報だけでなく、市の教育行政に興味を抱くような掲載内容にしていく。また、令和2年3月に市のHPとあわせて教育委員会のHPをリニューアルする予定となっており、リニューアルに向け、庁内ワーキングチームでの検討を行う。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 12

主要事業名	学校支援ボランティア活動の推進	担 部 名	教育委員会
		課 名	社会教育課

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ			
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり	
体系項目	(3)	地域の実情に配慮した特色ある学校づくりの推進	
個別施策	⑥	学校活動における社会人ボランティアの活用	

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習社会の実現（自らの経験、知識や学習の成果を生かす場の広がりなど） 地域の教育力の向上 子どもたちの多様な体験・経験の機会の増加、コミュニケーション能力の向上など 教職員の負担軽減や児童生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導の充実
---------------	---

3 実績

学校と地域が連携・協働する体制が構築され、制度の周知も図られてきている。学校支援ボランティアの登録者・延べ活用実績も増加し、円滑に学校支援が図られるようになってきた。また、学校からもボランティアの活用により、技能教科の実技指導や体験的な学習の充実、校内環境の美化につながったという意見も多く聞かれた。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	ボランティア登録者の活用に偏りがあり、学校支援コーディネーターと学校、登録者の連携を強化していく必要がある。また、年間をととした学校の支援要望を整理する必要がある。
改善策	学校支援ボランティア事業の更なる充実を図るために、「地域学校協働活動研修会」を定期的実施し、担当となる学校職員や地域のコーディネーターの資質向上を図る。また、ゲストティーチャーを活用する授業等を学校の教育課程に位置付けるようにする。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 13

主要事業名	図書館資料整備事業	担当	部名	教育委員会
			課名	中央図書館

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(5)	読書活動の推進
個別施策	①	学校図書館と中央図書館の連携による読書習慣の推進

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	図書館資料の骨格をなす図書・雑誌・新聞・視聴覚資料の収集と充実を図り、利用促進を目的とする。
---------------	--

3 実績

<p>国体・オリンピックの機運を上げるため特設ブースを設置し、紙の資料を充実することができた。さらに匿名の市民の方から300万円の寄付があり、絵本や児童向けの本を中心に例年より多くの図書を購入し市民へ提供することが出来た。</p> <p>電子図書館については、利用者の要望に沿う資料の入手が困難であり、あまり貸出数は伸びなかった。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	図書館の資料費を増やし、多くの利用者へ資料を提供し、多くの利用者に来館してもらうような工夫をすることが、図書館として最重要の課題である。
改善策	図書館の資料費を昨年以上確保できるよう予算要求するとともに、寄贈受け入れのPRをすることで、図書館資料を充実させ市民の図書館利用の促進を図る。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 14

主要事業名	図書館活動の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	中央図書館

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(5)	読書活動の推進
個別施策	②	図書館基本計画等の推進

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	平成28年に策定した図書館基本計画に沿って運営し、10年計画につき年度ごとに計画を進めていく。地域の知の拠点として市民と共に成長を続ける図書館を目指す。
---------------	--

3 実績

<p>鹿嶋市第二次子ども読書活動推進計画の策定のためのアンケート結果により、子どもの読書に関する環境や意識の実態の把握ができた。</p> <p>また、図書館事業の参加者については、昨年度と比べてほぼ横ばいの状況だった。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	第二次鹿嶋市子どもの読書活動推進計画を策定する上で関係部署との意見交換等調整が必要。また、様々な図書館事業を実施してきたが、大幅な来館者増に結び付いていない。さらに合同司書研修会については、多くの職員が参加できるように日程を考慮しなければならない。
改善策	合同司書研修会については、全員が参加できる研修の回数が限られるので、情報共有化出来るよう方策を構築する。 また、現在の図書館事業に新たな新イベントを企画するとともに、フェイスブックやツイッター等を活用し図書館事業のPRを図ることで来館者増に努める。 第二次鹿嶋市子どもの読書活動推進計画の策定にあたっては、関係部署と意見交換をしていくことで計画内容に反映させる。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 15

主要事業名	不登校・長欠解消支援の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	教育指導課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	2	豊かな学びを支える教育環境づくり
体系項目	(6)	鹿嶋市教育センターの機能の充実
個別施策	①	幼児、児童・生徒、保護者、教職員の相談・支援活動の充実 他

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿嶋市内小中学校の長欠（不登校を含む）児童生徒の減少（出現率：小学生1%以下・中学生5%以下） ・不登校児童生徒の社会的自立の実現に向けた支援及び学校生活への復帰
---------------	---

3 実績

<p>前年度より継続的に不登校の状態にある児童生徒数の減少につながった。中学校では、長欠（不登校を含む）児童生徒の出現率は4.5%であったが、小学校では、1.4%であり、特に高学年において新規の長欠（不登校を含む）児童生徒が増加した。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の回復段階を理論的に理解しながら、関係機関と連携した適切な援助指導を進めていく必要がある。 ・今後は、不登校児童生徒のみでなく、病欠を含む長期欠席児童生徒への対応策を講じる必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県カウンセリングアドバイザー事業を活用して、「鹿嶋市不登校等対策連絡協議会」において、不登校児童生徒の回復段階についての実践的な研修を実施する。 ・理由を問わず年間10日以上欠席した児童生徒は、援助指導の対象とし、学校をはじめとする関係機関で連携しながら指導していく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 16-①

主要事業名	家庭教育力の向上	担当	部名	教育委員会
			課名	社会教育課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	3	子育てのための家庭教育への支援
体系項目	(1)	家庭教育に関する学習機会の充実
個別施策	①	家庭・学校・地域が連携した子育て支援のネットワーク ほか

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	保護者に対し、家庭での子どもとの関わりなど家庭教育の重要性を啓発するとともに、子育てに関する悩みや不安について、保護者が一人で抱え込まず、相談し合う機会を提供する。
---------------	--

3 実績

<p>子育て講演会や家庭教育を考える集いでは、家庭での子どもとの関わり方や子育てに関する悩みや不安について、社会情勢や子どもたちの実態を踏まえた特色ある講演会を開催することができた。ほとんどの保護者からも参考になったという意見が寄せられた。また、訪問型の家庭教育支援については、5歳児(未就学児)を対象をしほり、全戸訪問したことにより、訪問した家庭に喜んでもらえる事業になった。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	講演会については、常に社会情勢に見合ったテーマを選定し、参加者に役立つものにする必要がある。訪問型家庭教育支援については、対象をしほって全戸訪問を行ったが、幼児教育や福祉部局等の手厚い支援があるため、訪問対象を検討する必要がある。また、訪問については円滑に進めることが出来たが、一方で不在の家庭やインターホン越しの対応もあったため、事業の周知が必要である。
改善策	講演会についてはアンケート結果を参考にしながら学校等と連携を図り、実施していく。訪問型家庭教育支援については、対象家庭を変更し、小学校1年生の子どもをもつ市内全家庭とし、学校からの周知による不在家庭の減少、保護者の不安や悩みに寄り添う支援や情報提供、さらには課題を抱える家庭の早期発見・早期支援を行っていく。訪問前には、広報誌やFM放送、市内小学校等へ資料の配布などを行い、市民に周知していく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 16-②

主要事業名	家庭教育力の向上（放課後児童クラブ事業）	担当	部名	教育委員会
		課名		社会教育課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	3	子育てのための家庭教育への支援
体系項目	(1)	家庭教育に関する学習機会の充実
個別施策	①	家庭・学校・地域が連携した遡育で支援ネットワークづくりの推進

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験活動ができるよう、文部科学省と厚生労働省が協力し、一体型を中心とした放課後健全育成事業を進める。また、地域住民等の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として学習や体験・交流などを行う事業の計画的な整備を進める。
---------------	--

3 実績

「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後児童クラブについては、保護者ニーズに対応し、前年度から5クラブ増設しての実施となった。児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所づくり、児童の多様な体験活動及び地域住民との関わり合いなど、総合的な放課後対策を実施することができた。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	放課後児童クラブにおいて、年々増加する利用希望者を受け入れていくためにはクラブ増設が必要となるが、場所の確保が困難な状況である。現状で放課後子ども教室や放課後児童クラブで使用している部屋も、学級編成によっては教室不足により調整が必要となっている。また、放課後児童クラブの基準（面積等）も平成32年4月1日からは厳格運用となるため、それに向けた対応も引き続き必要となっている。
改善策	放課後子ども教室及び放課後児童クラブの場所確保について、余裕教室や特別教室だけでは受け入れしきれない場合には、一般の普通教室の活用を視野に入れて対応していく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 17

主要事業名	生涯学習活動の推進（学習機会の提供）	担当	部名	教育委員会
		課名		社会教育課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上
体系項目	(1)	社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進
個別施策	②	能力や経験が生かされる仕組みづくり

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	・市民の主体的な活動を補助し、活動に取り組める場と機会の充実を目的とする。
---------------	---------------------------------------

3 実績

<ul style="list-style-type: none"> ・行政は、住民に説明を求められれば、出向き説明することは一般的に行われている。まちづくり出前講座のように、講座メニューを取りまとめ制度化し、住民が行政に依頼するハードルを下げることで、より充実した学習機会の提供が図れている。 ・かしま難楽習塾のような、市民主体で、多種多様な講座の開催、千人を超える受講生を管理、運営している団体は、全国的に見ても数は少なく、先進的な取り組みである。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・講座種類は豊富にあるが、依頼される講座に偏りがある。市民が興味を示す内容などを講座を実施する課と協議する必要がある。 ・講座開催場所は、中央公民館が主で、各地区公民館ではあまり開催されていないので、広い地域で開催できるよう、今後検討が必要。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり出前講座のチラシにある、講座内容一覧の各講座の説明文などを改善し、市民が興味を示す内容にしていく。 ・中央公民館と比較して、空いている各地区公民館を活用して、講座を開催することで、より地域に根付いた運営を推進する。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 18

主要事業名	地区公民館活動の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	中央公民館

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ	
基本方針	4 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上
体系項目	(2) 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成
個別施策	① まちづくり委員会活動の支援

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域社会が形成される。
---------------	---

3 実績

	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区まちづくり委員会においては、地域住民が主体的に地域づくり事業やまちづくり事業を実施し、コミュニティの形成、地域の絆づくり、地域の連帯感を育む取組が行われた。また、東京2020大会を活用した地域活動の活性化に向けた取組や各種事業において、機運醸成のための取組ができた。 ・地域の課題に寄り添い、解決のために必要な手法を学ぶ機会として、各種研修会、講座等を開催することで、地域課題や解決に向けた取組等についての情報を共有することができた。また、学習活動（学び）の成果を生かした実践活動の支援（特色ある地域づくり事業）を展開していくことで、地域住民に対し地域への興味、関心を高め、住民が地域活動に関わる機会をつくり、地域参画が進むように促すためのきっかけづくりとしても期待できる。（新たな地域の担い手づくり）
--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	東京2020大会をまちづくりの好機と捉え、住民が主体に取り組み地域活動やまちづくり活動がより活発に展開されることは、持続可能な社会の構築に向けた大きなチャンスである。現在取り組まれている様々な市民活動が、2020年に向けて連携・連動し合い、新しい価値と魅力を創造していくためには、市民と行政の共創による取組は必要不可欠である。しかし、コミュニティにおける人間関係の希薄化や自治会加入率の低下、地縁組織（自治会や消防団、子ども会育成会、シニアクラブなど）活動の低迷、地域のリーダーの固定化や高齢化の問題など、コミュニティの抱える課題は、複雑多岐にわたり厳しい活動環境にある。
改善策	改めて、安全で安心な暮らしやすい、住みよい地域づくりを推進していくために必要なコミュニティ活動の重要性を再認識し、活動全体の見える化と活動のネットワーク化していくことが必要である。様々な市民活動の実態を点検しながら、計画的・効果的な活動と、その活動を担っていく持続可能な市民（地域）組織のあり方について再考し、こうした課題解決の手法として考えられる地域コミュニティ活動プランの作成に向けた学習会を令和元年度から実施し、小学校区ごとの計画づくりに取り組んでいく。※令和元年度～令和3年度（予定）

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 19

主要事業名	まちづくり市民センター事業の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	中央公民館

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ	
基本方針	4 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上
体系項目	(2) 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成
個別施策	③ 子どもや若者の地域参加の促進

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	市民の芸術・文化活動に関する関心を高め、意欲的な創作活動を促し、地域文化を育みます。
---------------	--

3 実績

	市美術展覧会や芸術祭を開催することで、市内芸術家の創作活動への意欲を増進させる機会となっている。また、市民に気軽に芸術文化に親しむ機会を創出することができている。継続的な課題（芸術文化活動を行う新たな人材）について、市内高等学校を訪問し、市文化事業に関する情報提供（周知・広報活動）を行い、新たな人材の発掘・育成へとつながる取り組みを引き続き継続していく必要がある。※芸術祭：高校生出品者4人（書1人、写真2人、自由創作1人）
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	継続的な課題ではあるが、文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり、新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など、市の芸術文化活動の活性化を図る取り組みを文化協会と連携して進めていく必要がある。
改善策	東京2020大会を契機に、地域にどのようなレガシーを残すことができるのか。また、市の芸術文化活動をどのように生かし国内外に発信しアピールしていくのか。東京2020大会を活用した市芸術文化活動の活性化策を文化協会と連携して、引き続き取り組んでいく必要がある。平成30年度から市の文化事業について市内高等学校へ広報活動を行っており、引き続き若い世代への広報活動を継続していくとともに、幅広い世代が芸術文化活動に参加できる取り組みを文化協会と検討していく。東京2020大会開催に向けたおもてなし活動を契機に、新たな芸術活動の担い手の育成、発掘を進めていきたい。また、令和元年度においては、オリンピック開催1年前イベントとして、まちづくり市民センターを会場に様々な市民活動団体と連携した事業の実施について協議を行っている。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 20

主要事業名	まちづくり連絡協議会活動の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	中央公民館

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成		
個別施策	④	公民館まつり等の実施		

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	オリンピックの成功に向けて様々な取り組みとその成果を生かして、どのようなまち、地域をめざしていくのか。お互いの顔と活動につながる環境づくりについて、オリンピックを契機に地域の方々と考えていく必要があります。公民館を中心とした地域におけるまちづくり市民活動のネットワーク形成をめざして「地域コミュニティプラン」を作成し、オリンピックレガシーとして鹿嶋市の市民活動のステップアップを図っていきます。
---------------	---

3 実績

東京2020大会鹿嶋市開催の機会を活用して、まちの魅力や課題を改めて点検し、魅力的なまちとはどのようなまちなのか、国内外からの来訪者に納得してもらえるおもてなし活動とは何なのかを学び、多くの市民と情報を共有できたことは、これからのまちづくりの推進にとっても大きな一歩である。東京2020大会の成功のためには、様々な市民活動団体が、日頃の活動の成果を発揮し活躍できる機会を提供することが大切で、そのためには、活動と人、人と情報を繋げてネットワーク化すること、様々な団体が連携・連動して取り組むことで活動がより活発に展開され、持続可能なまちづくりに大きな力となることを多くの市民と共有することができた。

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	現在取り組まれている様々な市民活動が、2020年に向けて連携・連動し合い、新しい価値と魅力を創造していくためには、市民と行政の共創による取り組みは必要不可欠である。しかし、コミュニティにおける人間関係の希薄化や自治会加入率の低下、地縁組織（自治会や消防団、子ども会育成会、シニアクラブなど）活動の低迷、地域のリーガ-の固定化や高齢化の問題など、コミュニティの抱える課題は、複雑多岐にわたる厳しい活動環境にある。
改善策	改めて、安全で安心な暮らしやすい、住みよい地域づくりを推進していくために必要なコミュニティ活動の重要性を再認識し、活動全体の見える化と活動のネットワーク化をしていくことが必要である。様々な市民活動の実態を点検しながら、計画的・効果的な活動と、その活動を担っていく持続可能な市民（地域）組織のあり方について再考し、こうした課題解決の手法として考えられる地域コミュニティ活動プランの作成に向けた学習会を令和元年度から実施し、小学校区ごとの計画づくりに取り組みます。※令和元年度～令和3年度（予定）

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 21

主要事業名	青少年健全育成事業の充実	担当	部名	教育委員会
			課名	社会教育課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		
体系項目	(4)	市民ぐるみで行う青少年健全育成の推進		
個別施策	②	フロンティア・アドベンチャーなどの青少年の交流と活動の促進 他		

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な自然の中での体験活動を通して、生きる力(自立性・協調性・課題発見能力・課題解決能力など)を身につけ、成長することを目的とする。 ・青少年をとりまく社会環境を健全化し、青少年の健全育成や非行防止などを目的とする。 ・青少年がインターネットを適切に活用できるように、家庭、地域学校などにおける情報モラル教育の推進を目的とする。
---------------	---

3 実績

<ul style="list-style-type: none"> ・国の調査では「体験活動が多い子は、自己肯定感（※自身のあり方を評価できる自尊感情や自らの価値や存在を肯定できる自己存在感など指す）が高い」という調査結果が出ているが、青少年の自然体験は減少傾向にある。フロンティアでの体験で、感動や喜び、寂しさ、忍耐などの感情を持つことで、豊かな人間性と価値観が形成され、自己肯定感の向上に有効である。 ・インターネット利用は低年齢化しており、青少年に対して有害な情報も安易に手に入る現状となっている。メディア教育を充実することで、適切なインターネット利用を促進することができる。
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	フロンティア・アドベンチャーには多くの指導者（大人）が関わっている。働き方の変わってきている現代において、今までと同じ指導者の集め方では、なかなか集めることが難しくなっている。
改善策	2020年度は中止し、今後の開催に向けて1年間かけて、実施方法を検討する。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 22

主要事業名	カシマジグウケイダイツケタリグウケアト 鹿島神宮境内附郡家跡保存活用計画策定	担当課名	教育委員会
		担当者名	社会教育課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	5	伝統文化・芸術の振興
体系項目	(2)	歴史、文化遺産（有形・無形）の保存・保全と継承
個別施策	①	国・市指定の史跡の整備 他

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<p>史跡整備事業は、史跡公園として郷土学習や体験学習の場や、市内外の人たちが鹿嶋市の歴史に触れる場として保存整備・活用を行っていく。また、遺跡内容の把握のため確認調査、発掘調査を行っていく。</p> <p>また、国史跡の保存・活用事業は、出土品やこれまでの成果を活用し、直に体験できる活動などを通して歴史に触れ、学べる機会を設定し、国史跡の理解を深めてもらう。</p>
---------------	---

3 実績

<p>史跡整備は、検討委員会や文化庁、県と協議しながら、保存活用計画を策定した。保存活用計画は、国史跡の保存する上で基礎的資料となる計画書であり、今後の指針となるものである。また、平成26年度に策定した整備基本構想を基にした史跡の活用についても盛り込み、今後の基本計画、基本設計への基準となるものである。</p> <p>収集資料や出土品の保存・活用事業は、出前講座や企画展示・特別展示などをときどきセンターやミニ博物館ココシカで行い、鹿嶋の歴史が学べる機会を設けた。</p>

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>史跡整備事業は、保存活用計画で定めた基準を基に、公有化の問題や基本計画、実施設計に係る費用、整備環境の問題などがある。収集資料や出土品の保存・活用事業は、見学者・利用者を増やすための活動の見直しを検討する必要がある。</p>
改善策	<p>保存活用計画を基に今後の基本計画、実施設計の基礎となる資料作りを行い、速やかに史跡整備が行えるようにする。また関係部署との連携も図れるように協議を進めていく。ミニ博物館ココシカの健全運営は、学校との連携を図り、地域の子供達に周知することを検討する。</p>

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 23

主要事業名	地域資源を生かしたスポーツ交流の推進	担当課名	教育委員会
		担当者名	スポーツ推進課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		
基本方針	6	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
体系項目	(1)	幅広い年代が楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進
個別施策	①	スポーツ事業の開催と機会提供

2 事業概要（Plan）

目的（事業の目指すところ）	<p>①スポーツ大会等の開催 ②「かしまSPORT NAVI」の運用</p>
---------------	--

3 実績

<p>平成30年度は、アントラースホームタウンDMO等と連携し、海外チームのスポーツ合宿、試合の誘致に成功した。また、ネットボールアジアユース大会を開催する予定であり、今後もいぎき茨城ゆめ国体や2020東京オリンピック開催を契機に、各種スポーツの国際大会の誘致にも積極的に取り組んでいきたい。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<p>2019年茨城国体や2020年東京オリパラの機運を活用したスポーツ事業（障がい者スポーツ）の拡充を図るとともに、スポーツや健康づくりを通じて様々な分野が協力する体制づくりの更なる構築が必要である。</p>
改善策	<p>鹿行5市で取り組むアントラースホームタウンDMOとの連携によるスポーツの産業化と、市民、地域、スポーツ団体や民間事業者などと行政が連携して「健康・スポーツ健康都市宣言」などの検討を通じて、スポーツによる本市の活性化を図る。</p>

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 24

主要事業名	市民スポーツ活動の推進	担当課名	教育委員会
		担当者名	スポーツ推進課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			
基本方針	6	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
体系項目	(2)	スポーツ団体の育成支援と指導者の育成	
個別施策	①	スポーツ団体の育成支援	

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	①スポーツカレッジ（指導者養成講座）の開催 ②各公民館単位の健康づくり事業及び高齢者対象事業並びに各種イベントの実施 ③大野区域屋内温水プールの管理運営方法の策定
---------------	---

3 実績

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は、国体やオリンピックを視野に入れた健康づくり事業、ニュースポーツ、パラスポーツ普及活動の展開が図れた。 ・温水プールの管理運営については、新規の施設ではあるが近隣類似施設の視察や聞き取りを十分行うことで、指定管理者を公募し選定、指定が出来た。
--	--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	・プールでの健康増進のための市民のニーズを的確に把握し、プログラムを立てて行くことが重要。
改善策	・施設利用者からの聞き取り、高齢者等が多く集まるスポーツイベント等での聞き取りを行いニーズの把握に努める。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 25

主要事業名	いきいき茨城ゆめ国体の開催準備とリハーサル大会の開催	担当課名	教育委員会
		担当者名	スポーツ推進課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			
基本方針	6	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
体系項目	(1)	幅広い年代が楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進	
個別施策	①	スポーツ事業の開催と機会提供	

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	第74回国民体育大会におけるサッカー競技の開催成功と、国体開催を通じたスポーツに対する市民の機運醸成を図ることを目的とする。
---------------	--

3 実績

	3つの専門委員会により必要に応じて協議を行いながら、茨城国体及びリハーサル大会開催に向けて必要な計画等の策定を行った。また、国体のリハーサル大会を開催し、茨城国体へ向けた課題等を抽出した。 市内小中学校と連携プロジェクトチームにより、国体を活用した事業について協議を行い、事業を実施した。
--	---

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城国体開催に向けた仮設施設などの精査及び県運営交付金の確保とその運用。 ・リハーサル大会開催結果に基づいた茨城国体開催でのおもてなしなどの実施に向けた調整、及び競技会運営にかかる体制の見直し。 ・行幸啓もしくはお成りにおける茨城県警や茨城県担当課との十分な調整と受入体制の構築。
改善策	専門委員会において関係団体等と調整していくとともに小中学校との連携プロジェクトチームにおいても協議をしていく。また運営体制については、リハーサル大会開催結果を十分検証し、庁内推進委員会等に協議を図っていく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 26

主要事業名	いきいき茨城ゆめ国体の推進	担当課名	教育委員会
		担当者名	教育総務課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			
基本方針	6	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
体系項目	(3)	スポーツ環境の整備・充実	
個別施策	①	広域的な大会に対応できる施設整備	

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	日本サッカー協会規定に基づく、サッカーグラウンド及び付帯施設（フェンス、観覧席、クラブハウス、トイレ等）を整備、改修をする。 ①北浜多目的球技場（天然芝）②ト伝の郷多目的球技場（人工芝）③高松緑地多目的球技場（人工芝）
---------------	--

3 実績

<p>厳しい財政の中で、国、県、サッカーくじ助成等の補助金や交付金を活用し施設整備を行っている。限られた予算を最大限に有効活用し、国体施設を整備することはもちろんのこと、国民体育大会が終わった後も多くの市民が利用できるように配慮して施設整備を行っている。トイレの改修については、利用者からも洋式化を望む声が多く出ており、ウォッシュレット付洋式便座が主流となっているため、洋式便座の整備、改修を進めるとともに管理が十分にできる施設（北浜多目的球技場、高松緑地公園多目的球技場クラブハウス、ト伝の郷多目的球技場管理棟）についてはウォッシュレットを整備した。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	関連施設については、大規模な施設整備工事及び改修工事を行ってきたが、細部の修繕等ができていない箇所が見受けられるため、関係課と調整し、より施設の機能が充実するように対応をしていく。利用者の動線を考慮し、必要に応じて施設の維持補修を行う。（段差の解消、サイン等）
改善策	国体が終了しても、今回整備した施設は広く市民に使われる体育施設であることから、一定の維持補修は必要である。スポーツ推進課及び施設管理課と調整しながら、中長期的に活用できるように適切な維持補修工事を行っていく。

平成30年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 27

主要事業名	奨学金制度の充実	担当課名	教育委員会
		担当者名	教育総務課

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			
基本方針	7	教育における今日的な課題への対応	
体系項目	(1)	教育と福祉が連携した子どもたちへの支援	
個別施策	②	学びを支える経済的支援の充実	

2 事業概要 (Plan)

目的（事業の目指すところ）	優良な生徒・学生でありながら、経済的な理由によって修学が困難な者に学資を貸与し、有為な人材の育成を図る。また、一定数の新規奨学生を決定することにより、本市出身者の教育の機会を継続的に確保し、奨学資金の有効活用を図る。
---------------	--

3 実績

<p>・前年度に実施した平成31年度新規奨学生を含めた合計87人に奨学金の貸与を行った。また、制度の周知方法について、市内及び近隣高校へアンケートを実施した。</p> <p>・奨学金返還滞納対策については、口座引落とし不能者に対する早期対応と長期滞納者への夜間個別訪問等の実施により滞納者数及び滞納額が減少した。</p>
--

4 評価に基づく事業の課題・改善策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して奨学金貸与をするため、制度の周知等の工夫が必要である。 ・複数年度に渡る滞納を減らす対策が課題である。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金制度の周知時期、周知方法などをさらに検討すると共に新たな周知場所の開拓をしていく。 ・新規滞納者を作らないため、口座引落とし不能者への電話連絡と納付書の送付を迅速に行う。また、複数年度に渡る滞納者に対しては、督促通知に加え、電話や夜間訪問等による個別対応を継続的に行う。